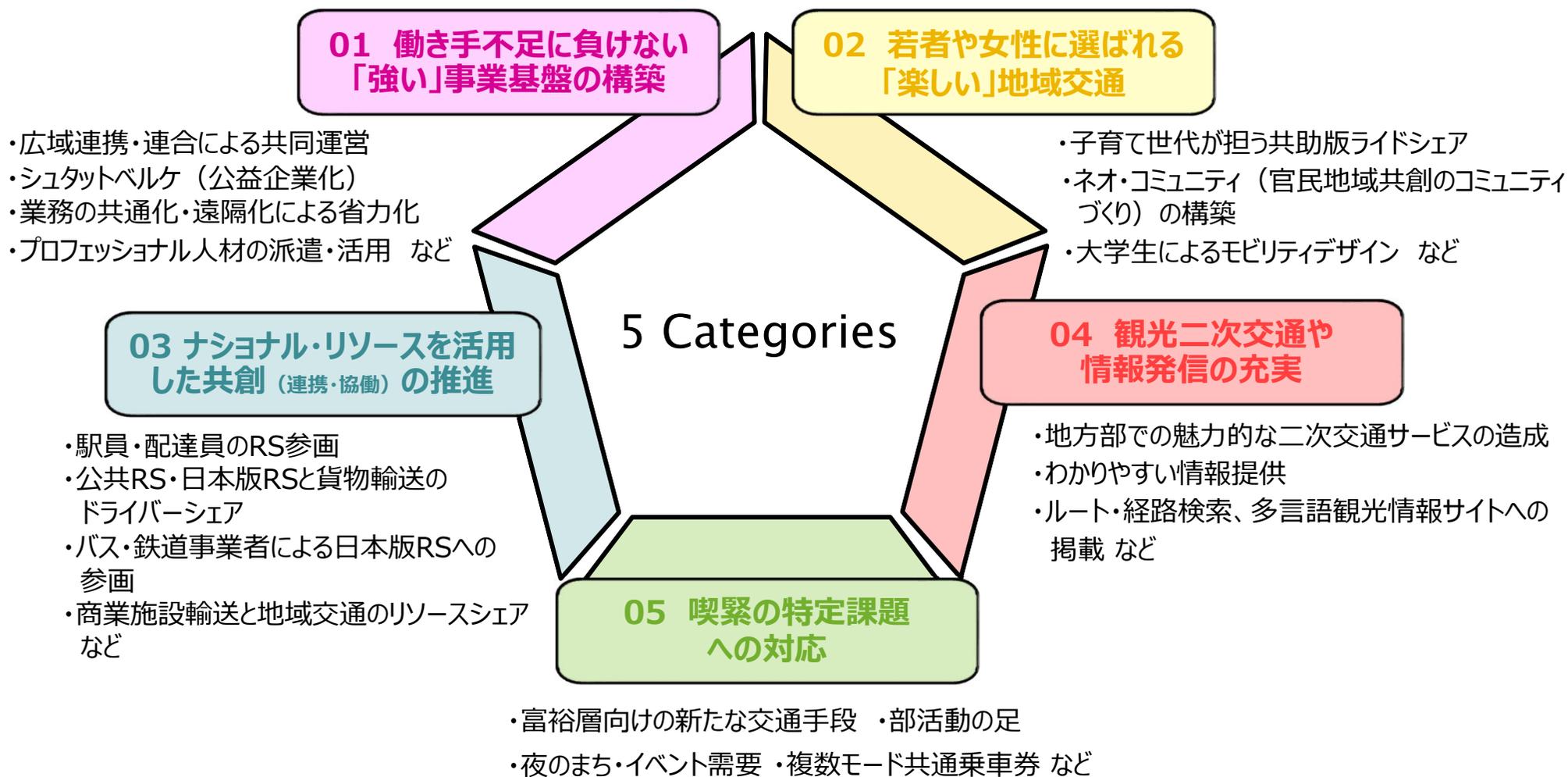


○加速する人口減少・働き手不足の下において、地方創生の基盤である地域交通を守るため、従来の発想を超える**持続可能な地域交通の「新しいカタチ」を官民で創出**する。

○「交通空白」解消・官民連携プラットフォーム（会員数：1024）のもと、**2030年頃を見据え、全国展開・実装が期待される新しい仕組み（運営、技術・サービス、システム、人材等）の構築**に取り組む。

○**令和7年度は、以下の5分野を重点テーマに、計20件程度の実証事業（順次公表）**を展開し、「『交通空白』解消本部」（本部長：中野国土交通大臣）が本年5月頃に定める今後3年間の「取組方針」のもと、各事業の課題や成果を広く共有しながら、全国展開への道筋をつける。



タクシー配車業務・システムの共通化

複数のタクシー会社の連携による一元的な配車システムの導入手法等を標準化、ワンストップアプリによる共同配車



パートナー企業

実施地域

電脳交通



全国複数箇所

バス業務の標準化推進

バス業務の標準的な業務モデルを作成し、システム構成やデータ仕様の標準仕様を策定。システム開発に必要なコストを低減させ、生産性を向上



パートナー企業

実施地域

フューチャー
アーキテクト



全国複数箇所

鉄道事業者等のライドシェア協力

鉄道駅からの二次交通の確保に向けて鉄道事業者の駅員等がドライバーに協力
→持続性確保の観点から、労働関係の論点整理も併せて実施。



パートナー企業

実施地域

JR東日本



千葉県
館山市
南房総市

地域施設送迎のリソースシェア

地域の施設送迎の共同化や運行・配車管理を簡単に行うことができる送迎車両管理ツールの開発・展開



パートナー企業

実施地域

ソーシャル
アクション機構



群馬県みなかみ町等
全国複数箇所

日本版ライドシェアと貨物輸送のドライバーシェア

ラストマイル有償運送制度等を活用して、自家用車ドライバーが荷物を運送



→活用可能な自家用車の車両数や手続きの電子化などについて実証実験を通じて課題を整理。

パートナー企業

実施地域

佐川急便
ヤマト運輸、Go



東京都
埼玉県

公共ライドシェアドライバーによる貨客混載事業

公共ライドシェアドライバーが旅客運送の隙間時間に日本郵便のゆうパックを配達



パートナー企業

実施地域

日本郵便
Uber Japan



石川県加賀市

改札ピットでタクシー手配

新幹線等の予約とタクシー配車を接続させた連携システムの技術開発を行い、観光地等の二次交通へアクセスを改善



パートナー企業

実施地域

JR東日本
電脳交通



群馬県高崎市

リアルタイム相乗りタクシーマッチング

即座に、手軽に利用可能な相乗りタクシーのリアルタイムマッチングシステムを開発し、既存アセットを活用した供給量拡大を実現



パートナー企業

実施地域

NearMe



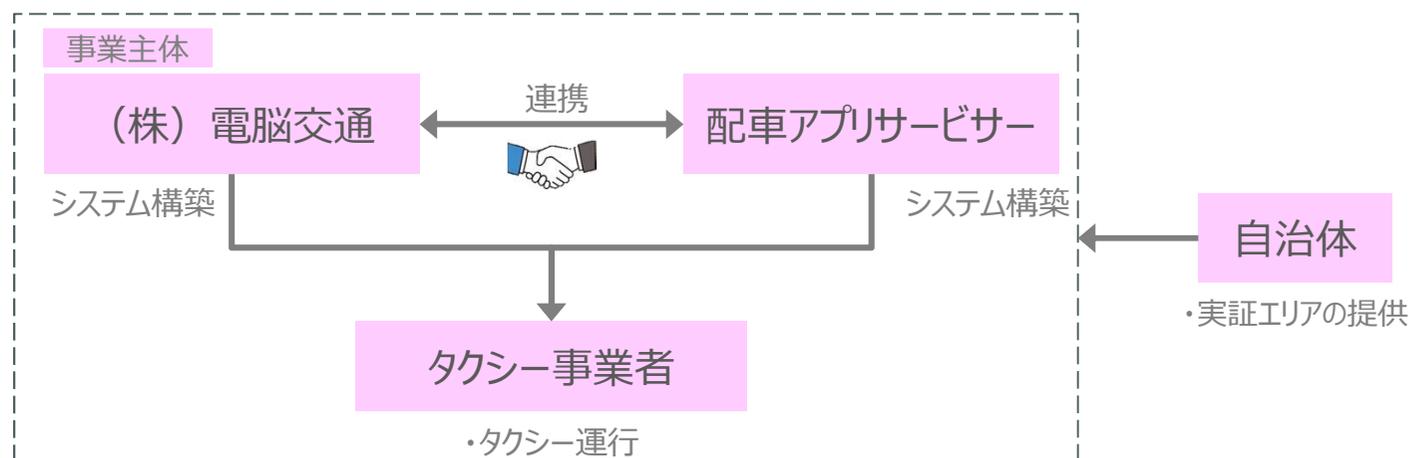
都内複数箇所

⇒プロジェクトを実施する中で課題や論点を整理し、他地域での展開を検討。

Area R7年度 実証地域

全国複数箇所

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

事業者連携による「共同配車」（配車ステーション）や「アプリ共通化」は生産性を高めるための有効な手法だが、個社ごとに異なるシステムや配車オペレーションを調整するコストが実現の課題となる。

Outline プロジェクト概要

地域の複数のタクシー会社の連携による一元的な配車システムの導入手法を標準化するとともに、配車アプリ-配車システム間のシステム連携仕様を標準化。ワンストップアプリによる共同配車の先進事例を創出し、生産性向上のモデルケースとして全国展開を図る。

Effect 想定される効果

地域のタクシー事業の利便性、生産性、持続可能性の向上。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

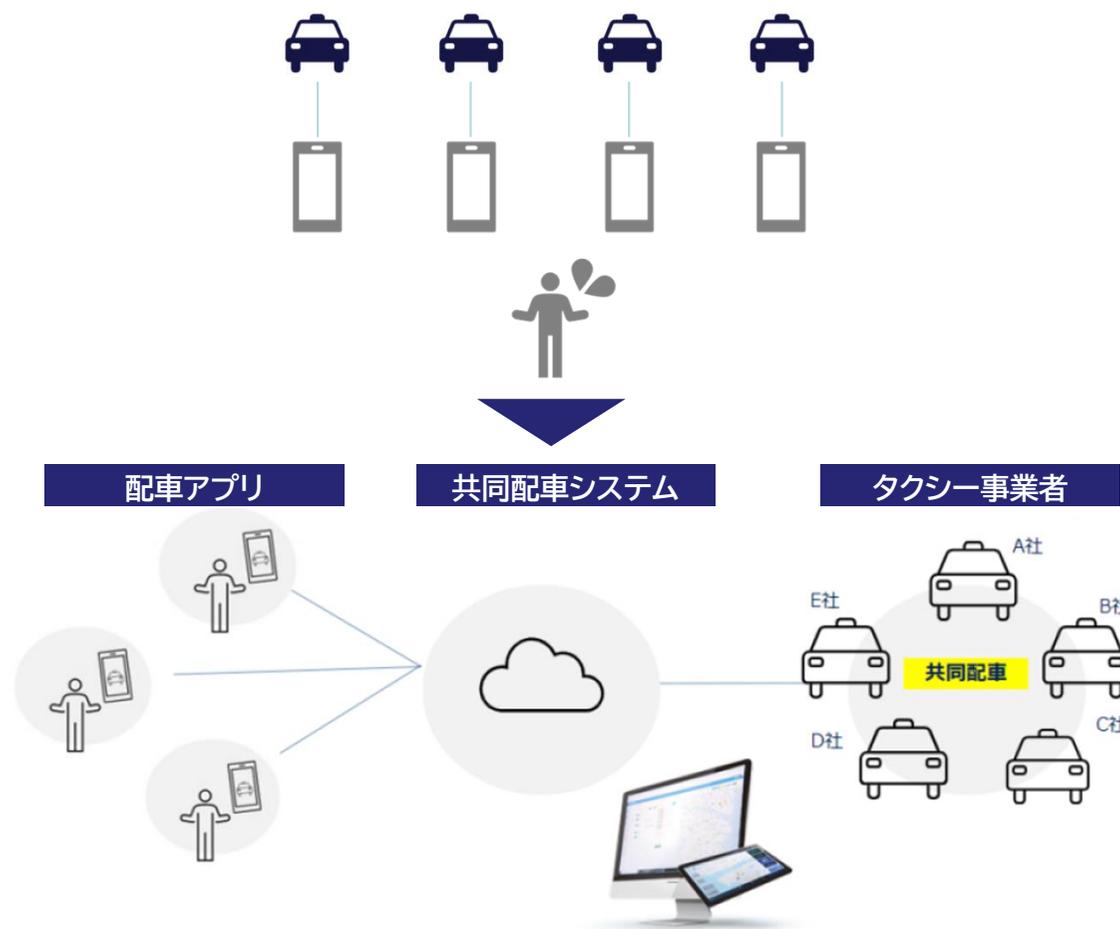
標準化及びモデル化の成果を活用し、2027年度以降の全国展開を目指す。

タクシー配車業務・システムの共通化

タクシー共同配車を新規導入するための業務モデルを標準化し、全国展開を加速。同時に、異なる配車アプリを共同配車センターで連携するためのシステム連携インターフェースを標準化することで、アプリのワンストップ化と共同配車の課題解消を実現。経営改善とユーザビリティ向上を図る。

プロジェクトイメージ

- 近年、人手不足、路線バスの減便・廃止などが進み、地域住民の「移動の足」不足の問題が顕在化。
- 「移動の足」確保のため、タクシー事業者の生産性向上やアクセシビリティ向上が必要。
- 既存資源の有効活用による生産性向上と利便性向上を両立する施策として、共同配車や配車アプリの共通化が有効な手法となるが、①事業者ごとに業務手順がバラバラで合意形成コストが高い、②配車アプリがバラバラに導入されているといった課題がある。
- 本プロジェクトでは、共同配車の新規導入を促進するための標準業務モデルの作成と、既存の配車アプリを共同配車システムを基盤として連携するための標準インターフェース（外部API）開発を行うことで、共同配車と配車アプリワンストップ化を推進する。

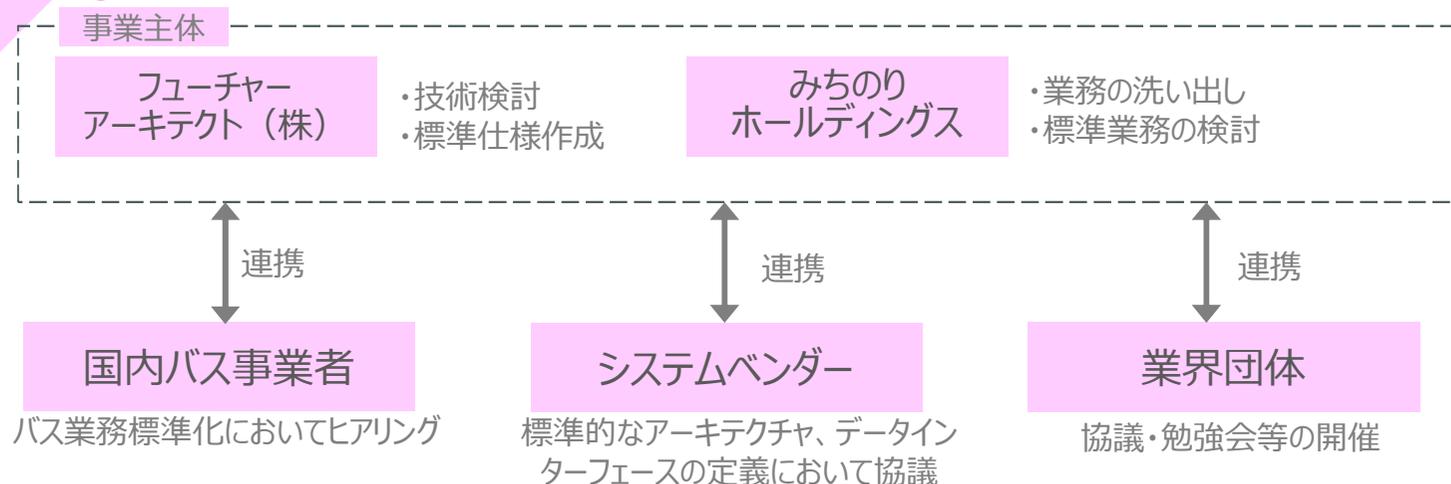


バス業務の標準化推進

Area R7年度 実証地域

全国複数箇所

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

バス業界は少子高齢化や2024年問題等により運転手不足が深刻化。持続可能性の確保が課題。

特に業務モデルが標準化されていないことは、業務のデジタル化や既存システムリプレイスのコストに繋がっているだけでなく、データ活用や共同経営などの課題にもなっている。

Outline プロジェクト概要

バス業務の標準的な業務モデルを作成し、これに基づく標準的なシステム構成やデータインターフェースの仕様を策定する。

業界と幅広く連携することで標準業務モデルのフィジビリティ向上を図るとともに、標準仕様に基づくシステム実証を行うことで、その有用性を検証する。

Effect 想定される効果

システム導入/リプレイスやデータ連携に必要なコストを低減させ、生産性を向上。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

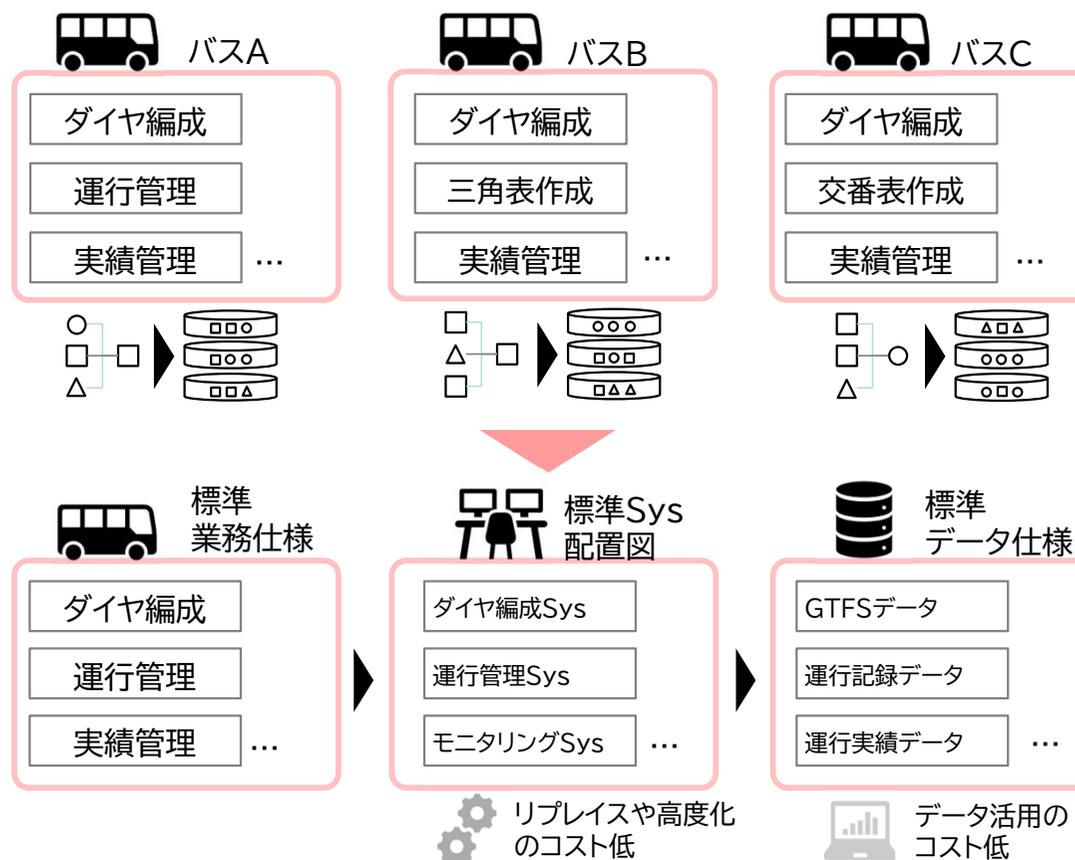
2025年度から段階的に標準仕様の完成度向上を図るとともに、平行して業界への普及促進を図る。

バス業務の標準化推進

バス業務の手順、システム、データを一体的に標準化。
システムリプレイスやデータ連携、業務連携等に必要なコストを低減させ、生産性向上を実現する。

プロジェクトイメージ

- ▶ 乗合バス事業は数多くの民間事業者によってサービス提供されており、業務やシステムに関する業界標準が存在しない。
- ▶ 業務手順が標準化されていないことから、各事業者ではシステムの複雑なカスタマイズが常態化。このことは、リプレイスや改修のコスト増を招くだけでなく、地域とのデータ連携や複数事業者による業務提携、さらには業界外のサービス参入などイノベーション創出の阻害要因にもなっている。
- ▶ 本プロジェクトでは、業界と連携し、業務、システム配置図、データ仕様を一体的に標準化する仕様を策定し、公開。業界と連携した普及促進を図ることで、バス事業の生産性向上を図る。



Area R7年度 実証地域

千葉県南房総市、
館山市

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

- ・公共RSにおいても、ドライバー不足が課題。
- ・観光地等における駅からの二次交通について足の確保が課題。

Outline プロジェクト概要

地域住民の日常の足及び観光地等における鉄道駅からの二次交通の確保について、鉄道事業者社員がドライバーに協力することで、公共RSの持続性確保・向上を図り、「地域住民の足」「観光客の足」の確保に取り組む。

Effect 想定される効果

- ・公共RSの持続性確保・向上
- ・地域住民及び観光旅客の利便性の向上

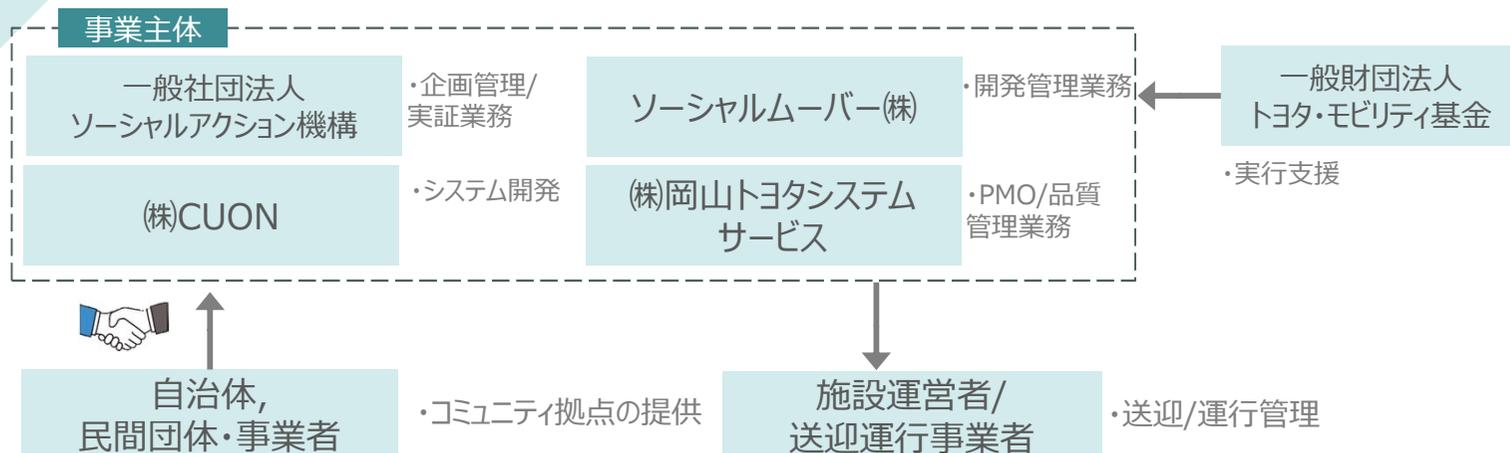
Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

公共RSの導入地域における、ドライバー不足に対する鉄道事業者等の協力の横展開
持続性確保の観点から、労働関係の論点整理も併せて実施。

Area R7年度 実証地域

群馬県みなかみ町等
全国複数箇所

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

宿泊、観光、福祉、教育等の施設では、各施設で利用者へ送迎輸送を提供しているが、運用負担が課題となっている。

他方、「地域の足」「観光の足」確保の観点からは、これらの施設送迎車両を地域輸送資源として活用することが期待されるが、運行や配車の管理は専門性が高く、施設職員による実施には限界がある。

Outline プロジェクト概要

複数の施設送迎車両の運行計画立案や運行管理等を行うための共同配車管理システムを開発する。

システムは施設職員等の非専門家の利用を想定し、簡易かつ直感的に利用可能なユーザー体験を提供する。これにより、施設送迎車両による効率的な送迎や観光地への立ち寄りを可能とする。

Effect 想定される効果

施設送迎の負担軽減及び観光地における移動の足確保。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

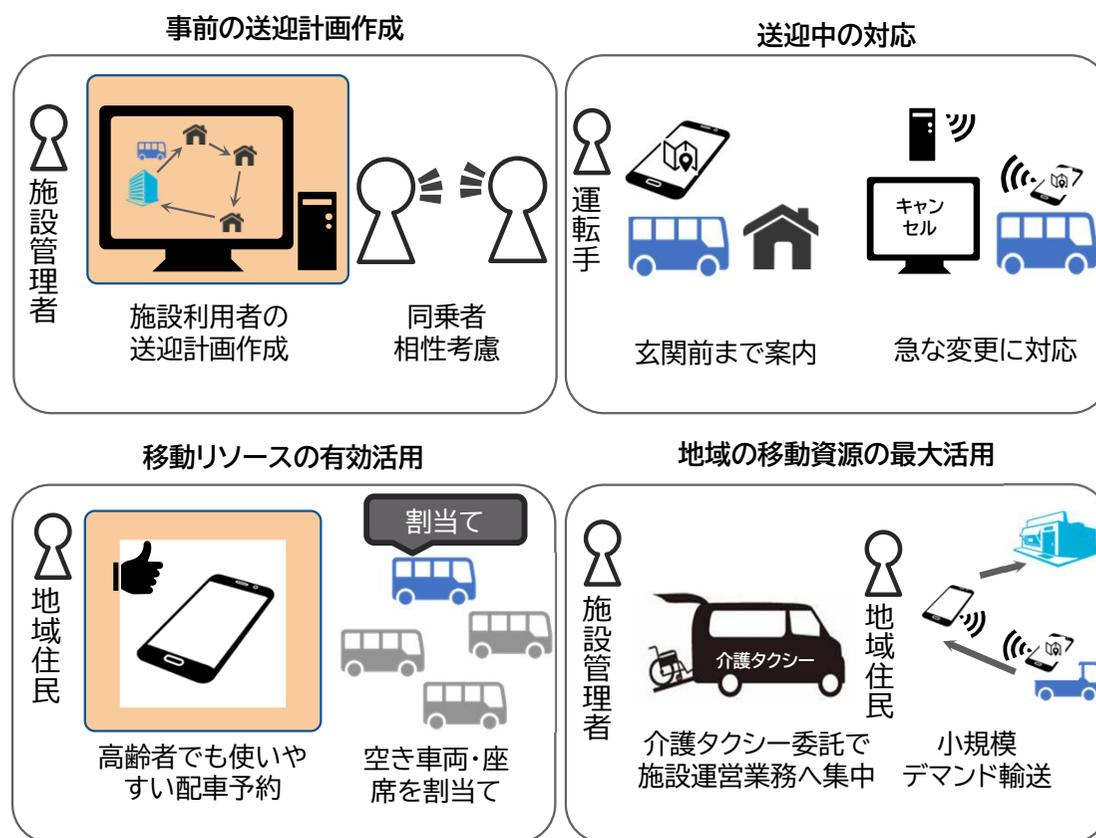
2025年度の開発成果はオープンソースとして公開。2026年度から本格普及を目指す。

施設送迎（宿泊、介護、教育）のリソースシェア

施設送迎を共同化・効率化するための送迎車両管理システムを開発し、オープンソースとして誰でも利用可能な形態で公開。安価・軽量の仕組みで福祉・観光・教育等の分野の移動リソースを地域全体で有効活用可能とすることで、「地域の足」「観光の足」確保を図る。

プロジェクトイメージ

- 公共交通が充実していない地方部などでは、介護施設や温泉施設などは利用者のための送迎車両を自前で運用。複数車両の同時運用や複雑な送迎計画の立案などは専門技術が必要であり、施設側の負担が課題となっている。
- 本プロジェクトでは、施設管理者等の非専門家が簡易、安価、軽量に利用可能な配車管理システムを開発。また、複数施設の車両を共同運行・管理するための機能を備える。
- システムはOSSで公開するとともに、軽量のインフラ構成を採用することにより、安価で使いやすいサービスとし、クイックな横展開を実現する。
- これにより、送迎車両を地域の輸送資源として効率よく活用し、「地域の足」「観光の足」を確保する。

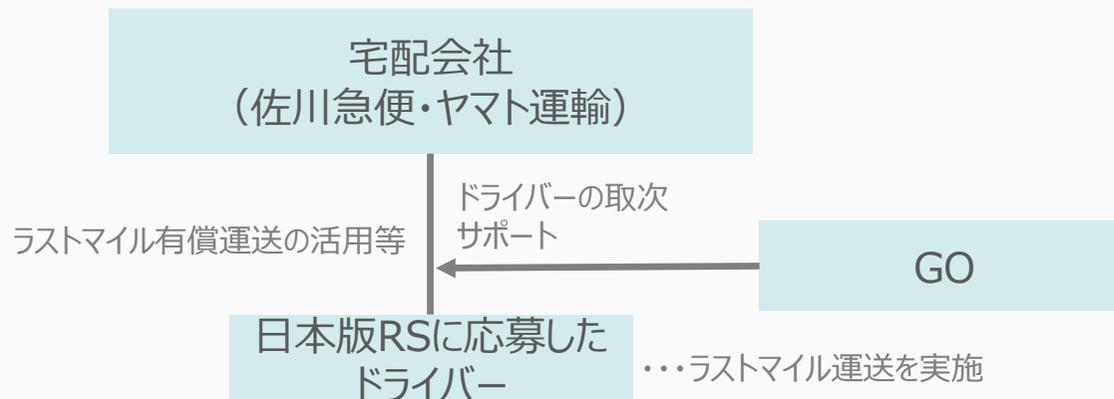


日本版ライドシェアと貨物輸送のドライバーシェア

Area 実証地域

R6年度：東京都
埼玉県

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

ドライバー不足は、ラストマイルを担うタクシー業界・宅配事業の共通の課題であるため、事業者による適切な安全管理の下、不足するドライバーを確保することができる柔軟な仕組みを構築する必要がある。

Outline プロジェクト概要

ライドシェアの取組で確認されたスポット運送ワークの需要を貨物運送に展開。ラストマイル有償運送制度等を活用して、日本版RSに応募したドライバーが自家用車で荷物を運送するなど、ラストマイル運送に貢献。



Effect 想定される効果

旅客運送（タクシー）・貨物運送のどちらの業界にも属さない第3の母集団から新たなワーカー層（日本版ライドシェアに応募したドライバー）を取り入れることにより、ドライバー不足の解消が期待される。

ライドシェアやアプリ専用車両での勤務が、本業タクシードライバーへの転職の呼水となったように、今回の取り組みが運送事業の本業人材の増員につながる可能性。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

実証実験での課題（ラストマイル有償運送制度における車両の登録枠の撤廃、申請の電子化等）を整理し、他地域での展開を検討
また、事業者において今回の実証実験の知見も活用した地方部での面的な交通空白解消の取り組みについて調整中

公共ライドシェアドライバーによる貨客混載事業

Area 実証地域

R6年度：石川県加賀市
R7年度：未定

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など

全体の稼働・・・
時間を確認

加賀市観光交流機構

日本郵便

協力事業者

運行管理

交通空白地
自家用有償
旅客運送

ラストマイル有償運送

Uber

旅客とのマッチング

自家用車ドライバー

・・・公共ライドシェアおよび
ラストマイル運送を実施

Background プロジェクト実施の背景

交通空白地における公共ライドシェアでは、需要の少ない時間帯にドライバーの待機時間が生じやすい。そこで、ライドシェアの配車依頼が入らない時間帯（隙間時間）に貨物輸送を行うことで、ライドシェアドライバーの待機時間を有効活用することができ、貨物側のドライバー不足の解消にも寄与すると考えた。

Outline プロジェクト概要

<令和6年度実証事業>

- 加賀市版ライドシェアの運行主体及びアプリを提供する Uber より、ライドシェアドライバーに貨物運送への参加を呼びかける。
- 日本郵便がラストマイル有償運送に係る許可取得及び希望するドライバーの登録を行った上、ドライバーは旅客運送の隙間時間に日本郵便のゆうパック配達を行う。
- 旅客・貨物を通じた稼働時間の把握は、ライドシェアの運行主体が行う。

Effect 想定される効果

ライドシェアドライバーの稼働効率が向上し、需要の少ない時間帯も含めてドライバーの確保が容易になる。貨物運送事業者も、配達リソースを多様化することで、持続的なドライバー確保が期待される。

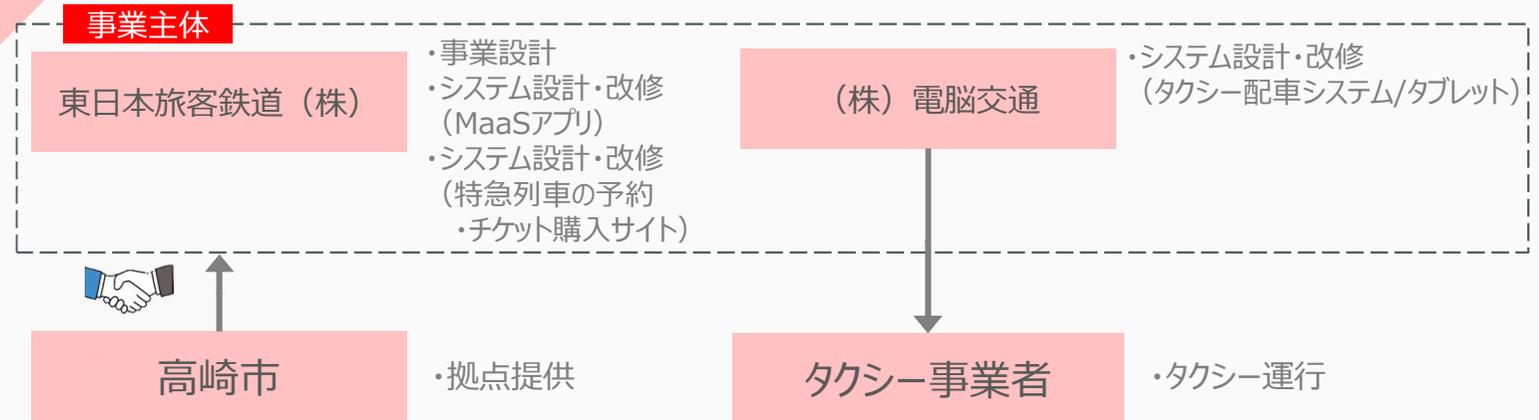
Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

令和6年度の実証では、旅客と貨物は別々のシステムでマッチング等を行う予定で、稼働時間の確認等はマニュアルでの対応となる。他の地域への展開やスケールアップをを目指すにあたり、同一のシステムによる貨客混載の実施についても検討する。

Area R7年度 実証地域

群馬県高崎市

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など



Background プロジェクト実施の背景

観光客等にとっては、観光地におけるタクシーやデマンドバスなどの二次交通へのアクセス手段がわからないことが多く、「地域の足」「観光の足」確保の課題となっている。

また、事業者観点からも、来訪者等の正確な需要を把握できないことは、車両の効率的な運用の課題となっている。

Outline プロジェクト概要

新幹線等の予約システムとタクシー配車システムを連携させ、特急券等の購入時に特急到着駅を出発地としたタクシーを事前に予約できるサービスを実装する。

改札システムと連携することで、利用者の乗車情報を取得し、予約及び配車タイミングの確定に活用する。

Effect 想定される効果

一次交通と二次交通のシームレスな移動体験の提供による「交通空白」の解消。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

2025年度から技術仕様や運用手法の確立を図り、2027年度から本格普及を目指す。

新幹線等の長距離移動と連携したシームレスなタクシー/デマンド配車を実現。
「マルチモーダルかつシームレスな移動」を実現するMaaS技術を活用した「交通空白」解消のベストプラクティスを創出する。

プロジェクトイメージ

- 既存の交通資源を最大限効率的に活用する観点から、新幹線等の特急券の予約システムと連携したシームレスなタクシー等配車システムを構築。
- 改札入場の認証システム（交通系IC）と連携することで、予約者の新幹線乗車及び降車をタクシー事業者に通知。
- これにより、新幹線等の到着時間に合わせたシームレスな配車（ユーザー側のメリット）、新幹線等の定時性を踏まえた確実な乗客獲得（事業者側のメリット）を両立させ、長距離移動と二次交通を組み合わせた交通空白解消のベストプラクティスを創出する。



Area R7年度 実証地域

都内複数個所

Project Members 事業主体、パートナー企業・団体、関係省庁など

事業主体

株式会社NearMe

- ・システム開発
- ・技術実証


 駅や交通ターミナル
の運営事業者

- ・実証時乗降スペースの確保 等

地方自治体

- ・実証エリアの提供
- ・規則面の支援 等

運行事業者

- ・タクシー運行等

大学・研究機関等

- ・交通行動調査

Background プロジェクト実施の背景

近年、観光地等におけるタクシー需要の高まりに対して、ドライバー不足等により、ピーク需要に供給が追いつかない状況が発生。「観光の足」確保のため、需要ピークに効率的に対応する方法として、既存アセットの供給量を柔軟化させる「相乗り」の手法が有効だが、利用者利便の向上が課題となっている。

Outline プロジェクト概要

従来、「事前予約」が原則であった「相乗りタクシー」について、リアルタイムに利用者のマッチングを行うマッチングシステムを開発。利用者主体の募集や、潜在利用者に対するプッシュ通知など新たなサービス体験を開発することで、相乗り利用の利便性を飛躍的に向上させ、「観光の足」確保を図る。

Effect 想定される効果

相乗りタクシーの利便向上によりサービス供給量増大、「地域の足」「観光の足」確保。

Plan 今後の展開（他地域への事業展開構想・見通し）

2025年度の開発成果はオープンナレッジとして公開し、2026年度からの横展開を推進。

即座に、手軽に利用可能な相乗りタクシーのリアルタイムマッチングシステムを構築。
既存車両を最大限効率的に活用し、観光地や都心部における終電後に「タクシーが捕まらない」問題を解消し、利便向上や消費活動の活性化を図る。

プロジェクトイメージ

- ▶ 観光地や都心部ではタクシー需要の変動が大きく、ピークに対応したタイムリーな供給に課題がある。
- ▶ 日本版ライドシェア等により供給量自体を増やす取組が進む一方、ピーク対応としては車両供給量ではなく輸送量自体を増やす取組も必要であり、既存車両の輸送量を増やす「相乗り」の仕組が有効。
- ▶ 本プロジェクトでは、事前予約が基本となっている相乗りタクシーの仕組みを発展させ、「その場」でマッチング検索を行い、相乗りを成約させるリアルタイムマッチングシステムを開発。「相乗り」の利便性を飛躍的に向上させ、一般的に利用可能なサービスを実装する。
- ▶ これによりタクシー車両数はそのままサービス供給量を拡大し、「地域の足」「観光の足」確保を図る。

終電後など、時間帯によってタクシー供給が需要に追いつかない状況が発生



現場で即座に相乗りを成立させるリアルタイムマッチングシステムを開発

